

検討会議による意見（まとめ）

①改修等の優先順位（第1期で改修等できなかった施設の扱い）

【考え方①】すべての施設を総合判定（再評価）する

○実際に劣化度の高い（悪い）施設を修繕したほうが、結果的には利用している市民に還元できる。

【考え方②】第1期で改修等できなかった施設を優先した順位とする

○第1期の計画期間は5年間で、第2期は10年間と長い計画期間となる。仮に第1期に位置付けられていた施設が、再評価されたことによって、計画対象範囲に入らない、または、下位に位置付けられたことから、長期間も手つかずになることは説明しにくいのではないか。

○長寿命化改修・大規模改修を予定し、これまで実施したい修繕を見送りしていた施設が、再評価されることによって、改修スケジュールがさらに見送られた場合は、施設管理者の立場や、施設利用者の立場からも、納得しにくいと考える。

○再評価した場合は、第1期の計画はなかったことになるのか。との意見が必ずあり、計画の継続性を鑑みると第1期で施設改修ができなかった施設は第1期として引き継ぐべきと考える。

②第2期計画に位置付ける対象範囲について

【考え方①】第4グループまでを対象とする

○金額的な面も考慮する必要があるが、人的な面も考えられているか。現在、営繕係に対して工事や設計の全般についてお願いしているが、第5グループになった際に、業務量的に足りるのか。

○第5グループでも現実的な予算範囲であっても、施設は予測せず、不具合が起きたりして、修繕費がかさむことが考えられる。それを見越すのであれば第4グループまでの方が現実的であるとする。

【考え方②】第5グループまでを対象とする

○予算が単年度予算であること、また流動な指標を軸に計画を作ることは難しく、すべての改修工事に予算的な担保された計画策定という考え方は、現時点では困難である。

○対象範囲を第4グループにした場合は、手つかずで、改修等されることなく目標使用年数を越してしまう施設が多くなるという事実があり、それを計画とすることはできないのでは。

③その他

○対象範囲を第5グループにした場合、改修スケジュールに30施設ほど計画に掲載されることになる。計画に掲載されると、改修等を前提に動かなければならないと捉われてしまうことに危惧する。

つまり、この計画は統廃合や廃止に関することを決定する計画ではないため、仮に施設として統廃合したいが、改修に位置付けられた場合、改修ありきで進まないか。

○計画とは別問題で、施設の統廃合を計画したい場合、どこの部署に相談すればいいのかわからない。しかしながら、その問題にいままさに差し掛かっているのではないかとの認識がある。

⇒本計画は長寿命化に関する計画なので、具体的な再配置、統廃合については記載できないが、その点については庁内検討委員会でも議題として挙がっており、計画内で言及する必要性はあると考える。